

【意見集約】魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けたいご意見を聴く会<大津>

日 時 平成 22 年(2010 年)11 月 28 日(日) 14:00~15:45

場 所 コラボしが 2 1 (参加者 4 9 名:発言 1 2 名)

(魅力と活力ある学校づくり関連)

具体案を出すときは教育のソフト施策もセットで出すなど、議論を幅広く行う中からよい答えを導き出してほしい。企業や大学などとの連携などに取り組みば学校活力が出る。

どの高校に進学しても大学進学ができるような学校づくりをしてほしい。

いじめや支援が必要な子どもが増加しており、1 学級の人数を減らすことがきめ細かな指導につながり、魅力ある学校になる。子どものニーズに応えた学校づくりをお願いする。

学校再編だけが教育改革ではなく、学科の内容を充実させるなども大事である。

学校の質の向上を考える中では、先生の質を向上することが大切。

学校選択肢が増えるならば高校再編を否定しないが、定員を減らすことが高校の魅力につながるかどうかについては疑問。

(学校規模、学級規模関連)

適正学級規模の 6 ~ 8 学級はあくまでも目安であり、小規模校も存続させるのか。

今回の説明を聞いているうちに、次第に小規模校のメリットは見えにくくなり、大規模校に誘導しているように感じた。

小・中学校は 35 人の少人数学級になると聞くと、高校では 1 学級生徒数はどうなるのか。

(地理的、地域的課題関連)

大津地域では高校間の距離が離れているが、別の地域では電車で通える学校や身近に職業高校があるなど学校選択肢が多い。滋賀県の公立高校は最初から学校間に学力差がある。

統廃合したときには通学が不便になるが、寮の完備などを考えているのか。再編にあたっては通学時間のことなど、最低限譲れないことは何かも考え、具体的議論をしてほしい。

(計画の周知と意見反映関連)

今回は各校 2 名程度の参加だったが、多くの人に知ってもらい、正しい情報を早く伝えることが必要。保護者の中では統廃合の話だけが一人歩きしている。

再編の話が急に進んでいるように感じた。具体案が詰まってきた時点でも、意見を言う機会をつくってほしい。学校の統廃合の具体案があれば教えてほしい。

この意見聴取会ですべてが決まるのか。平成 22 年度以降のスケジュールはどうなっているのか。

(財政難と教育費関連)

多くの人が再編は財政問題への対応のためととらえている。財政当局は、県教育委員会にどのような財政課題を伝え、迫っているのか。

高校再編でどれくらいの収支がよくなるのか。具体的な数字がわかれば教えてほしい。

厳しい経済状況の中において、通学費など、家計に関することも考慮することが大切。

(生徒数関連)

大津地域では流入も含めて生徒数が増えると思うが、大津地域ではいつ頃生徒数が減少すると推計しているか。生徒数は減少傾向とあるが、平成 7 年度から 37 年度にかけては大きくは減少しておらず、再編は 10 年くらい先でよいのではないか。

(その他)

人気がなくなると志望者が減少し、統廃合になってしまうと思うが、はじめから学校間で学力差にばらつきがあることに対して、県教育委員会としてどのように考えるのか。

全県一区によって他地域から多くの生徒が市内の高校に入学するようになった。人気校には他地域からの受験生が集中することから、同レベルの高校を設置してほしい。

同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。説明資料に対する質問等については、省略しています。